|  |
| --- |
| 令和元年度　校長室だより　　NO.　５**礎**令和元年５月７日 |

**「令和」になりました。**

　新元号「令和」になり、本日が橘小学校としては初日になります。

　フランスの小説家ビクトル・ユゴーは「子どもの心に種をまこう。正義と歓喜を与えてあげよう。子どもを育てながら我々は未来を育てているのである。」（ユゴー全集）と語っています。この言葉は私たち学校教育に携わるものにとって常に心に留めておかなければいけないものだと思います。令和の初日に改めて確認しておきたいと思います。

　さて、今回の朝礼から開始時刻が変更になり、朝礼後、学年や学級などで振り返りの時間があります。その際に参考になればと思い、朝礼時の校長の話の概要をお知らせします。

＜朝礼の概要＞

初春の　令月にして

気淑く　風和らぎ

梅は　鏡前の粉を披き

蘭は　珮後の香を薫らす

この万葉集の一節から「令和」という元号が決まりました。

「令和」という意味は、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味です。難しい言葉に思うかもしれませんが、実は、橘小学校の皆さんが普段から心がけてやっていることなのです。

「人々が美しく心を寄せ合う」というのは、「自分よし、相手よし、みんなよし」の三方よしのことです。

「文化が生まれ育つ」の文化というのは、振る舞い、行動、習慣のようなものです。橘小学校で言えば、橘小学校ならではの橘スマイル、あいさつ、朝礼や集会のときに黙って集まる、話をする人の方をしっかり見て聞く、学校説明会の時の上級生の礼儀正しい振る舞い、黙って掃除をするなどです。

つまり、「自分よし、相手よし、みんなよし」の三方よしの心を寄せ合う中で、橘小学校ならではの、振る舞い、行動、習慣が生まれ育っていく、ということが「令和」の意味です。「令和」は、もうすでに、橘小学校で当たり前にやっていることなのです。

　しかし、これらのことが、完全か、完璧か、100点かと言われるとどうでしょうか？

今、ちょうど、児童会では和田会長さんを中心に「当たり前のことを当たり前にやりましょう」と呼びかけて活動を始めようとしています。

　新しい「令和」の時代にふさわしく橘小学校ならではの文化を当たり前にやりましょう。

大いに期待しています。